

洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2017年（平成29年度；上期）1月～6月

（出荷単位：t・%：前年同期比）

1. 2017年上期（1～6月）洗剤等の出荷実績総計概況

（全体コメント）

2017年上期（1-6月；以下上期という。）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する13社の出荷実績総計は18,404トン前年同期比101.5%・272トン増でありました。

上期総出荷実績はランドリー用合成洗剤（液体）・ランドリー用ソフトーの出荷増により前年を確保いたしました。項目別では出荷増項目と出荷減項目がそれぞれ継続しております。項目別概況につきましては、2. 顧客市場動向概況後、3. の洗剤類項目別の出荷実績で説明いたします。

・洗剤等の2013年～2017年項目別出荷実績

項目 \ 年度（上期：1-6月）	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	前年比	前年増減
ドライクリーニング用洗剤（パーク系）	118	101	88	85	75	88.2%	-10
ドライクリーニング用洗剤（フッソ系）	28	27	28	28	26	92.9%	-2
ドライクリーニング用洗剤（石油系）	597	578	571	557	554	99.5%	-3
ドライ合計	743	706	687	670	655	97.8%	-15
ランドリー石鹼	188	182	184	158	142	89.9%	-16
ランドリー用合成洗剤（粉末）	8,421	8,485	8,734	8,859	8,913	100.6%	54
ランドリー用合成洗剤（液体）	3,759	3,840	4,187	4,161	4,395	105.6%	234
ランドリー用合成洗剤 計	12,180	12,325	12,921	13,020	13,308	102.2%	288
ランドリー用ソフトー 計	2,321	2,336	2,430	2,534	2,620	103.4%	86
（うち濃縮タイプ）	390	391	382	414	432	104.3%	18
ランドリー用粉末漂白剤	735	705	733	723	681	94.2%	-42
再販用合成洗剤 計	629	623	559	535	525	98.1%	-10
（うちコンパクト）	285	289	240	222	214	96.4%	-8
合成糊剤	534	499	506	492	473	96.1%	-19
上期（1-6月）総計	17,330	17,376	18,020	18,132	18,404	101.5%	272

2. 顧客市場動向

当同業会の顧客は①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（ホテルリネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③貸しおしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む。）であります。

1) ホームクリーニング市場動向

ホームクリーニング市場は、2017年度上期は総務省統計局『家計調査報告』によると一世帯あたり（農林漁業世帯を含む二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、3,516円と前年同期比205円減の94.5%となりました。当同業会の出荷量への影響として、ドライ項目の減少に加え漂白剤・合成糊の減少があり、ドライ分野・ランドリー分野共に市場縮小傾向であったと推察します。

ホームクリーニングの回復策のひとつとして、過度な価格競争を回避し、家庭洗濯との品質の差別化を消費者に体感していただくことが重要と考えております。更に『衛生＝高品質』への事業活動を展開することで、社会貢献を通じた適正価格・適正利益への変革を推進いただき、下期（7-12月；以下下期という。）は上期の減額分を取り戻し前年以上のクリーニング代支出額の増額獲得を期待しております。

2) テキスタイルリネンサプライと施設ランドリー市場動向

テキスタイルリネンサプライ市場は、成熟市場の中、ホテルは訪日外客数増加による上昇傾向と新設ホテルの開業による増加傾向であります。一方、病院寝具・ダストコントロール・ダイアパーの市場規模は減少傾向が継続していると推察しております。

①. ホテルリネン市場は、日本政府観光局（JNTO）の独自の推計によると上期の訪日外客数は13,757千人で前年同期から約204万人増の前年比117.4%で、訪日外客数は上昇傾向にあり、この傾向は2020年開催のオリンピック・パラリンピックまで継続すると推察致します。

週刊ホテルレストラン調べ（客室稼働率速報）による全国61都市の客室稼働率1-6月の稼働率は1月70.3%2月79.2%・3月以降は80%強とほぼ前年をキープし安定的で、主要都市周辺のリゾートホテル・旅館の稼働率も上昇傾向にあると推察致します。

②. 病院寝具市場は、厚生労働省『医療施設調査・種類別病床数』調査の総数が2016年末166.3万病床数から2017年6月末日には165.9万病床数と毎年、微減傾向ではありますが、長期的な高齢化社会の継続により市場環境としては比較的安定な市場と推察致します。医療施設からの要望として衛生的な寝具の提供要求が高まり、更に私物洗濯が増加傾向と推察致します。また、成長ビジネス展開として現在は入院時に必要な寝巻・タオルなどを一日単位でレンタルする「入院セット」など周辺サービスが好評で市場拡大を期待しております。

③. ダイアパー・貸しおしぼり市場は紙製品への代替が継続しており長期的な縮小市場であり、この傾向は今後も継続すると推察致します。循環型製品の提供が可能な市場ではありますが、利便性・コストの優位性が紙製品との差別化までは至っていない状況と推察致します。

④. ダストコントロール市場は、企業・生産工場・飲食店等の業務用と家庭向け市場となりますが、コスト意識の高まりにより減少傾向が継続しております。市場競争の激化により提供価格が下落傾向で、更にリース品の交換時期が長くなり、リース製品の汚れがハードとなっております。これにより、ハード汚れ洗浄処方の必要性で洗剤使用量は増量傾向となり洗剤出荷量への影響は微減と推察いたします。

⑤. 施設ランドリーの介護施設内ランドリー市場は人件費・設備投資及び修繕費の高騰傾向により外部委託が増加傾向と推察します。一方、コインオペレーション（コインランドリー）は厚生労働省の営業施設に関する調査によると増加傾向で2013年度は16,693施設で2017年18,500施設まで到達するものと推察致します。コインオペレーションの現状課題はクリーニング業法に抵触する点もクローズアップされつつあり、厚生労働省の動向に注目しております。

（まとめ）

ホームクリーニング市場全体の課題は、クリーニング代支出額の年間支出額の回復が急務と考えております。新たな需要の発掘、付加価値提供による料金の引き上げが必要です。

テキスタイルリネンサプライ市場全体の経営課題は、①エネルギーコストの削減②労働不足と人件費の増加が深刻化しており、適正価格に向けた価格改定（値上げ）の方向に動きつつあると推察いたします。当同業会はこの分野で『衛生＝高品質』製品に向けた最適な洗浄剤類の提供により業界への貢献を果たしたいと考えております。

2. 洗剤類項目別の出荷実績

1) .ドライクリーニング用洗剤（上期）

ドライ用洗剤は655トン前年同期比15トン減の97.8%でありました。4年前の2013年からは88トン減の88.2%となり、ホームクリーニングにおける高収益性のドライクリーニングの減少が継続しております。タイプ別でも、パーク系・石油系が減少傾向に変わりなく、春の需要期のクリーニング代支出額が減額であった事が出荷量減少の要因であり、ドライ離れに歯止めが掛かっていないと推察いたします。

2).ランドリー石鹼（上期）

ランドリー石鹼は142トン前年同期比16トン減の89.9%でありました。4年前の2013年から46トン減の75.5%まで減少し、ランドリー合成洗剤への移行が進んでいることが出荷量の減少と推察いたします。ランドリー石鹼の減少傾向は今後も継続すると予測しております。

3).ランドリー用合成洗剤（上期）

ランドリー用合成洗剤合計は前年同期比 288 トン増の 102.2%となり、ここ数年のトレンドでは増加傾向で安定した分野と推察しております。

ランドリー用合成洗剤の粉末タイプは 8,913 トン前年比 100.6%・54 トン増となり、液体タイプは 4,395 トン前年比 105.6%・234 トン増となりました。粉末タイプは安定的な出荷で、一方の液体タイプの出荷増は①ホテル・病院リネンへの自動投入システム対応として増加傾向②オペレーションランドリー（コインランドリー）ブームによる出荷増であったと推察致します。

4).ランドリー用ソフトナー（上期）

ランドリー用ソフトナーは 2,620 トン、前年同期比 86 トン増の 103.4%となりました。2013 年から 299 トン増 112.9%で増加傾向となりました。メインの使用市場であるホテルリネンは安定傾向にあり、タオル類の生産量安定とランドリー用合成洗剤（液体タイプ）同様のオペレーションランドリー（コインランドリー）ブームによる出荷量が増加傾向であったと推察いたします。

5).ランドリー用粉末漂白剤（上期）

ランドリー用粉末漂白剤は 681 トン前年同期比 42 トン減・94.2%となりました。2013 年から 54 トン減 92.7%でここ数年安定的でありましたが減少に転じました。

粉末漂白剤の主ユーザーであるホームクリーニング市場で、ホワイトカッターシャツ（ワイシャツ）からカラーカッターシャツ（ワイシャツ）への移行で、ワンショット洗剤の使用またはランドリー用洗剤に粉末漂白剤を併用することで、シミ抜き効果を向上させ、品質の向上を図る傾向が定着しつつあると推察しておりますが、クリーニング代支出額の減少から生産量の減少があったと推察致します。

6).合成糊剤（上期）

合成糊剤は 473 トン前年同期比 19 トン減・96.1%でありました。2013 年から 61 トン減 88.6%と長期下落傾向が継続しております。リネンシートやカッターシャツ（ワイシャツ）等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察しております。また、旅館の宿泊稼働率の上昇による宿泊客に提供する浴衣の生産量増加もソフト仕上げの傾向が定着し出荷増への影響は起きていないものと推察致します。

7).再販用合成洗剤（上期）

再販用合成洗剤は 525 トン前年同期比 10 トン減 98.1%でありました。2013 年から 104 トン減 83.5%と長期減少傾向が継続しております。濃縮タイプは 214 トン前年同期比 8 トン減・前年比 96.4%へ減少傾向となり、今後も減少傾向は継続すると予測しております。

3.上期のまとめ

当同業会の上期出荷総計で 18,4 前年同期比 272 トン増の 101.5%という結果となりました。2013 から 1,074 トン増・106.2%とランドリー用合成洗剤とランドリーソフトナーの出荷増により、出荷総計で増加傾向が継続しております。一方、ドライ項目の下落傾向に歯止めがかかっていない点では当同業会の深刻な問題と捉えております。各市場はホテル・オペレーションランドリー（コイン）は好調で、病院・ダストコントロール・ダイアパーは厳しい環境の中ではありますが、各市場の成長戦略実現による下期の市場拡大を期待しております。

当同業会加盟 13 社は業界の発展と業務用洗剤の商品供給を通じ、衛生的な品質実現による末端消費者の快適性を最大実現化することを前提に、企業の社会責任と倫理的責任を果たすべく、努力して参ります。今後とも、信頼のブランドを提供する当同業会加盟 13 社へのご支援をお願い致します。

以 上